

物の存在を表す「Vテアル」の意志性について
― 結果状態の終了時点に着目して ―

わたなべ せいじ
渡辺 誠治 (活水女子大学)

1. はじめに

「Vテアル」は一般に意志的行為の結果を表すとされる。例えば、次の(1)(2)の判定の違いは意志性の有無によって説明することができる。

(1) 台風で飛ばされぬよう、歩道にバス停が倒してある。

(2) *風で歩道にバス停が倒してある。

一方、杉村(1996)は、(3)～(6)などの「Vテアル」を「意志性のないテアル構文」と位置づけ、意志性を「Vテアル」成立の前提とする見方に対して疑問を投げかけている。

(3) おや、娘に持たせたはずの弁当が家に置いてある。うっかりしていたんだな。

(4) おや、おもちゃが散らかしたままにしてある。片付け忘れたな。

(5) おや、ガスがつけっ放しにしてある。消し忘れが多いな。

(6) 電話ボックスに入ったら、サイフが置き忘れてあったんだよ。

こうした「意志性のないテアル構文」とされる用例には、「Vテアル」全体に対する考察を前進させるための重要な要素が含まれている。しかし同時に、これらの文には考察すべき余地が残されている。本発表は、杉村(1996)で提起された「意志性のないテアル構文」の問題に触発されて、物が存在する状態を表す「Vテアル」¹を主な対象として、「Vテアル」の意志性の問題に対して新たな分析を試みるものである。

2. 先行研究と問題の所在

2.1 金水(2009)における「意志性」と「Vテアル」

金水(2009)は、意志性に関する以下の枠組みの中で、「Vテアル」の意味を捉えている。

まず、金水(2009)は意志性を、意志性1(命題内的)、意志性2(命題外的)、意志性3(発話現場的)の3つの階層に分類している。このうち、本発表で考察対象となる「Vテアル」に直接関係するのは、意志性1と意志性2である²。

金水(2009)は、意志性1について、「主語の指示対象が「そうしたい」と思って「そうする」という、最小限の意味での意志性」であり「命題内(scope within proposition)の意味」と規定している。また意志性2については、意志的行為は通常「次に何かをするために」あるいは「次に何かを起こすために」といった「行動や事態の連鎖の中で」行われるものであり、こうした「命題を越えた(scope over)意志性のあり方」が意志性2であるとしている。

このように意志性を捉えた上で、「Vテアル」の意味を次のように規定する³。

(7) シテアルの意味

a. 無標の意志動詞は、意志性1を主として表し、意志性2は語用論的に含意される。

b. A型シテアルは、意志性2までを表す。文脈・知識との調和・適合が必要。

さらに、シテアル構文に意志性2の意味が生じる理由について「意志的な行為には何らかの理由・目的があるはずだと考える我々の推論の傾向」があるため、シテアル構文が表す人の行為の結果に対して「我々はそれをした人の理由・目的を遡ってその結果に読み込んでしまう」からであると述べている。次にこれを具体的に例文(1)に即して見てみよう。

(1)では「倒す」という意志動詞が意志性1を表す。そして「Vテアル」は意志性2までを

¹ 益岡(1987)におけるA₁型の「Vテアル」に相当する。

² 本発表での考察対象は金水(2009)におけるA型の「Vテアル」である。益岡(1987)のA₁型は、金水(2009)のA型に包摂される関係にある。

³ ここでは本発表で考察対象となる、金水(2009)のA型に関するa, bのみを引用し、B型に関するcは省略する。なお、金水(2009)では「置き忘れてある」を想定して(7)を「一時的」としているが、「V忘れてある」については後述する。

表すから、(1)の「倒してある」には「倒す」という行為の結果から推論される何らかの理由・目的(意志性2)が読み込まれることになる。(1)では意志性2の具体的な内容が「台風で飛ばされぬよう」と文脈上に現れているが、理由・目的の具体的な内容が文脈上に顕在していない場合であっても「Vテアル」には何らかの意図性(意志性2)の存在が読み込まれる。

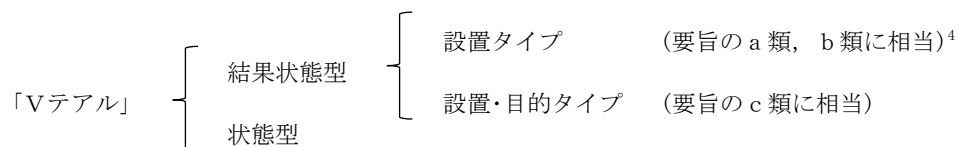
ただし、金水(2009)では、(6)のような「V忘れてある」については「無意志な、不作為の結果としての状態を表す」としたうえで、(6)の命題に意志性1が含まれないため、その結果として意志性2も生じない、との説明をしている。

2.2 問題の所在

本発表での「Vテアル」の意志性に関する分析は基本的に(7)に示した金水(2009)の枠組みに基づいて行う。ただし金水(2009)では、(6)の「V忘れてある」には言及されているが、同じく「意志性がないテアル構文」(杉村 1996)とされる(3)(4)(5)には触れられていない。本発表では、金水(2009)で言及されていない、こうした用例を中心に考察していく。考察に入る前に用語の整理をしておきたい。本発表では、意志性1を「意志」または「意志性」、意志性2を「意図」または「意図性」と呼ぶことにする。

3. 分析の枠組み

本発表で考察対象となる「Vテアル」(注1,2参照)は次のように分類される。



3.1 「Vテアル」の2分類 —— 「結果状態型」と「状態型」

「Vテアル」は、それが表す状態の性質の違いによって2つに分けることができる。

(8) 車輪にはチェーンが巻いてある。⁵ PB42_00257

(8)は「Vテアル」の動詞が表す「巻く」という行為によって新たに発生した状態を表している。それに対して、次の(9)が表す状態は「死骸」を「放置する」という行為によって新たに発生した状態ではない。

(9) 車寄せはタクシーが占領していて荷物の積み下ろしができないし、玄関にはゴキブリの死骸が放置してある。<https://review.travel.rakuten.co.jp/hotel/voice/13730/8123111>

この文は、「放置する」という不作為によって、それまでと同じ状態が変化せずにそのまま維持されている状態を表している。

(8)のように「Vテアル」の動詞が表す意志的行為の結果新たに生じた状態を表す「Vテアル」を結果状態型、(9)のように、「Vテアル」の動詞の行為によって新たに発生した状態ではなく、不作為によって維持される、それまでどおりの状態を表す「Vテアル」を状態型と呼ぶことにする。前掲の(3)(4)⁶および次の(10)～(12)はいずれも状態型である。

(10) …事業所敷地内には、原生林(約5万m²)がほとんど手を加えない自然のままの状態にしてあるほか、(中略)樹木に囲まれた緑豊かな事業所であります。

http://www.recycle-ibaraki.jp/02recycling/h13/h13_03.html

(11) このガジュマルを取り払ってしまうと建物が崩れてしまうため、そのままにしてあるそうです。https://fis.takushoku-u.ac.jp/research/wn_backnumber/21/3-1.html

(12) …自治会の掲示板には、7年も前から同じものが貼りっぱなしにしてある。<http://oymwalkers.cocolog-nifty.com/blog/2008/10/post-7b0a.html>

⁴ 要旨ではa類b類としたが、この分類はここでの考察では必要ないため用語を改めた。

⁵ 用例はBCCWJおよび検索エンジンYahooから収集した。前者の用例にはサンプルID、後者にはURLを例文の後ろに記した。それらが無い例文は作例である。

⁶ (5)は物の存在を表しているとは言えないので除外した。また(6)の「V忘れてある」については別の枠組みで考える必要がある。5節で触れる。

3.2 結果状態型の2分類 ―― 「設置タイプ」と「設置・目的タイプ」

結果状態型の「Vテアル」は、さらに、2つのタイプに下位分類することができる。

次の(13)(14)は対象がある場所に設置されていることを表しているが、「Vテアル」の動詞は、対象の設置の側面だけを表し、設置の目的については述べていない。

(13) 窓のすぐ後ろに三脚に取りつけたずんぐりとした望遠鏡が置いてあった。LBe9_00048

(14) 厨房の蛍光灯をつけると、掲示板に新しいメッセージが貼ってあった。LBr9_00193

それに対して(15)(16)の「Vテアル」の動詞は、対象の設置の側面だけではなく、設置の目的についても述べている。

(15) テラス席に行くと店員さんを呼びにくいこともあるが、こちらは呼び鈴が備え付けてある。
<https://tabelog.com/wakayama/A3004/A300401/30005357/dt1rvwlst/B435004419/>

(16) 店舗の外には大きな写真の広告が掲示してある。
<https://tabelog.com/saitama/A1103/A110301/11018225/dt1rvwlst/B111697971/>

(15)の「備え付ける」は、設置という動きの側面だけではなく“必要なものを準備する”といった特定の意図を動詞の意味として含む。また(16)の「掲示する」も、設置だけではなく、“多くの人に情報が周知されるように”といった意図を動詞の意味として含む。

結果状態型のうち、(13)(14)のように、設置の側面だけを表してその目的に言及しない「Vテアル」を設置タイプ、(15)(16)のように、設置の側面だけではなく、その目的にも言及する「Vテアル」を設置・目的タイプと呼ぶことにする。

4. 分析

4.1 結果状態型および状態型の「Vテアル」における「意図性」と「意志性」

次の(17)の「Vテアル」は結果状態型であり、「置く」という意志的行為の結果として新たに生じた状態を表している。ここでの「置いてあった」には「何か理由があつてわざとそうしてある」といった何らかの意図の存在が感じられる。

(17) 酒蔵の中には音楽が流れていた。古くからの酒蔵である。製麴室の隅には、リンゴが置いてあった。LBj5_00034

一方、次の(18)の「放置してある」は状態型である。(18)では「Vテアル」に対して意図の存在は読み込みにくい。

(18) アパートの階段の前に自転車が放置してある。

(18)が表す状態は「放置する」という行為の結果はじめて発生した状態ではない。(18)が表すのは、現実には、まず「誰かが自転車を置く」という行為によってその状態が発生し、その後、その状態に変更が加えられることなく、不作為によってその状態がそのまま維持されている状態である。

ここで想定している不作為⁷とは「何かをしないこと」である。何かをするかしないか、という可能性の中で選択された不作為である。つまり、ここでの不作為には選択判断する過程に意志性(意志性1)が含まれている。ただし意図について言えば、具体的な形で実現される行為の意図と比べると、何も起こらない不作為の意図は曖昧になりがちである。経験的なレベルで言えば、明け方に目覚めたとき、起き上がるか起き上がらないか選択する。起き上がるとすれば、それは次に何かをするためである(意図)。一方、起き上がらない場合、それ自体は意志的な判断に基づく一種の行為であっても、「起き上がらない」という不作為の意図は、「起き上がる」という行為を実際に行う場合と比べ、明確ではない。

(18)に意図性が感じられにくいのもこれと同じである。「放置してある」が表す状態は「行為によって新たにうまれた状態」ではなく「不作為によって維持される不変化の状態」つまり「何もせず何も起こらない」という不作為の状態である。こうした不作為の状態を表す「Vテアル」(＝状態型)の場合、意図性が常に読み込まれるとは限らないのである。状態型である前掲の(3)(4)(9)(12)および次の(19)も同様である。

(19) 郵便受けに郵便物がそのままにしてあると不在だと思われま

⁷ 不作為については5節でさらに考察する。

ただし、状態型「Vテアル」の意図性が常に読み込まれないわけではない。(10)(11)では「Vテアル」が表す不作為の意図の存在を容易に読み込むことができる。

4.2 「結果状態型」から「状態型」への移行

4.1節では、状態型の「Vテアル」が変化を伴わない不作為の状態を表すことを見たが、状態型が持つ不作為の意味は「Vテアル」を構成する動詞の意味から来ている。不作為の意味を持ち、状態型の「Vテアル」を構成する動詞は「～ままにする」「～っぱなしにする」「放置する」など、その数は限られている。しかし、結果状態型の「Vテアル」の中に、ある条件のもとで結果状態型から状態型に移行するタイプがある。状態型への移行が見られるのは、結果状態型のうち「設置タイプ」である。「設置・目的タイプ」では状態型への移行は起きない。

4.2.1 結果状態型(設置タイプ)における「結果状態終了時点」

(20)の「置いてある」は結果状態型(設置タイプ)であり、「呼びブザーを置く」という意志的な行為の結果の状態を表す。(20)の「呼びブザーが置いてある」が表す結果状態には、その状態を発生させた「呼びブザーを置く」という行為の意図が持続している。

(20)客の便宜を図るため、受付に呼びブザーが置いてある。

一方、次の(21)の「置いてある」は、(20)の「置いてある」とは異なる。

(21)受付の呼びブザーは全く機能しないのにいまだに置いてある。

<https://tabelog.com/aichi/A2305/A230503/23003379/dtlrvwlst/B112998890/>

(21)が表す状態は、「機能しない呼びブザーを置く」という行為によって発生したのではなく、「(客の便宜を図るために)正常に機能する呼びブザーを置く」という行為によって発生した状態である。しかし、(21)の「置いてある」が表しているのは、呼びブザーが機能しなくなった後の、修理も処分もされないまま維持されている不作為の状態である。

(21)が表すこの状態は、状態型の「Vテアル」が表す状態に等しい。実際、(21)の「置いてある」を、次の(22)のように状態型専用の形式である「Vままにしてある」に置き換えても実質的な意味に変化は生じない。

(22)受付の呼びブザーは全く機能しないのにいまだに置いたままにしてある。

(20)の「置いてある」には、「客の便宜を図る」といった当初の行為の意図が持続している。一方、(21)の「置いてある」に対してそうした当初の意図を読み込むことは難しい。

〔意志的行為の意図が持続している、と見なされる、その行為の結果状態〕(=(20)が表す状態)が終わる時点がある。(20)(21)のケースで言えば、「呼びブザーが正常に機能しなくなった時点」がそれに当たる。この時点の結果状態終了時点と呼ぶことにする。(20)は結果状態終了時点より前の状態を表し、(21)はそれより後の状態を表している。結果状態型(設置タイプ)である(20)の「Vテアル」は、結果状態終了時点経過後、(21)のように状態型の「Vテアル」に移行している。

同じく結果状態型(設置タイプ)である「貼ってある」の場合も同じ現象が観察される。

(23)ここもサーファーの利用が多いが、トイレには「ここで着替えたり、砂を洗い出したりしないでください」という旨の注意書きが貼ってある。 LBN6_00030

「注意書きが貼ってある」が表すのは、「注意書きを貼る」という意志的な行為の結果うまれた状態であり、「貼ってある」という表現には、「注意を促すために」といった当初の行為の意図が持続している。

一方、(24)の「貼ってある」は、結果状態型から状態型に移行したケースである。

(24)相鉄線の天王町駅には、とっくに潰れたパチンコ屋の広告がいまだに貼ってある。

<https://mevius.5ch.net/test/read.cgi/train/1444711098/628-n>

(24)の「貼ってある」が表しているのは、「潰れたパチンコ屋の広告を貼る」という行為の結果の状態ではなく、元々は「売上げ向上」といった目的のために「(営業している)店舗の広告を貼る」という行為の結果うまれた状態であったものが、「店舗の倒産後」(=結果状態終了時点以降)も取り除かれずに不作為のまま維持されている状態である。(24)の「貼ってある」に対して「売上げ向上」といった当初の意図を読み込むことは困難である。

4.2.2 結果状態型における「設置タイプ」と「設置・目的タイプ」のふるまいの違い

前節では結果状態型の設置タイプについてみた。本節では結果状態型の設置・目的タイプのふるまいを観察する。設置タイプの場合、結果状態型から状態型への移行が起きることを前節で見たが、設置・目的タイプでは、そうした移行は起きない。結果状態終了時点以降、設置・目的タイプの文は成立しなくなるのである。

(15') テラス席に行くと店員さんと呼びにくいこともあるが、こちらは呼び鈴が{備え付けてある／置いてある}ので心配無用。(実際に使用されていた表現に下線を付す)

(15')の「Vテアル」は結果状態終了時点の前の状態、つまり「呼び鈴」が設置者の意図どおりに機能している状態を表している。この場合、設置・目的タイプの「備え付けてある」も、設置タイプの「置いてある」もともに使用可能である。

一方、次の(21')は、結果状態終了時点の後の状態、つまり「呼びブザー」が設置者の意図どおりに機能しなくなった後の状態を表している。この場合、「置いてある」は使用可能であるが、「備え付けてある」は許容度が低下する。

(21') 受付の呼びブザーは全く機能しないのにいまだに{置いてある／^{??}備え付けてある}。

次の(25)(24')でも同じふるまいが観察される。結果状態終了時点の前(つまり、広告が設置者の意図どおりに機能している状態)は、設置・目的タイプの「掲示してある」、設置タイプの「貼ってある」とともに使用可能である。

(25) 店舗の外には大きな写真の広告が{掲示してある／貼ってある}。

<https://tabelog.com/saitama/A1103/A110301/11018225/dtlrvw1st/B111697971/>

ところが、店舗が潰れて広告が本来の目的を果たさなくなると(＝結果状態終了時点以降)、「掲示してある」の許容度だけが低下する。

(24') 相鉄線の天王町駅には、とくに潰れたパチンコ屋の広告がいまだに{貼ってある／^{??}掲示してある}。

結果状態型の「Vテアル」が状態型に移行した後、「Vテアル」の当初の行為の意図が持続されなくなること前節でみた。ところが、設置・目的タイプの「Vテアル」は、動詞が表す行為の意図を動詞の語彙的意味として含意している。その結果、設置・目的タイプの「Vテアル」の意味と状態型の「Vテアル」の意味との間に矛盾が生じる。(21')(24')で設置・目的タイプの「Vテアル」の許容度が低下するのはそのためである。一方、設置タイプの「Vテアル」は意図性について無色であるから、設置・目的タイプの「Vテアル」と状態型の「Vテアル」との間に起きたような、意図性に関する矛盾は発生しない。(21')(24')で設置タイプの「Vテアル」が許容されるのはそのためである。下に類例を挙げる。

(26) 倒産した遊園地跡地の壁に当時のポスターがいまだに{貼ってある／^{??}飾ってある}。

(27) 礼拝堂の跡地には信仰が廃れた後も教祖像がそのまま{置いてある／^{??}祀ってある}。

「～っぱなし」は主に不作為を表す接辞であるが、(28)のように、不作為を表す状態型への移行が可能な、設置タイプの「Vテアル」の動詞は「～っぱなし」と共起する。一方、状態型に移行しない設置・目的タイプの動詞は「～っぱなし」と共起しない。このことは本節での分析結果を反映している。

(28)・設置タイプ：

置きっぱなし／出しっぱなし／入れっぱなし／のせっぱなし／積みっぱなし
掛けっぱなし／敷きっぱなし／貼りっぱなし／巻きっぱなし

・設置・目的タイプ：

*祀りっぱなし／*生けっぱなし／*備え付けっぱなし／^{??}飾りっぱなし

5. 「Vテアル」の「意志性」についてのまとめ、および、本発表の位置づけ

本発表では、杉村(1996)の「意志性のないテアル構文」を承け、「Vテアル」に状態型という一類型を設けた。4.1節で述べたように、状態型では、行為の意図が読み込まれにくくなる場合がある。ただし、状態型の「Vテアル」が表すのは、意志的な不作為の状態(4.1節)である。この点、無意志の「Vテアル」を認める杉村(1996)の立場とは異なっている。

次に再掲する(10)の「Vテアル」が表すのは不作為の結果であるが、ここには「環境保護

のため」といった意図性が感じられる。このことは(10)の「Vテアル」に意図性の資源としての意志性があることを示している。前掲(11)の場合も同様の説明が可能である。

(10)・・・事業所敷地内には、原生林（約5万㎡）がほとんど手を加えない自然のままの状態にしてあるほか、（中略）樹木に囲まれた緑豊かな事業所であります。

一方、次に再掲する(12)(24)の場合、2つの解釈が成り立つ。

(12)・・・自治会の掲示板には、7年も前から同じものが貼りっぱなしにしてある。

(24)相鉄線の天王町駅には、とくに潰れたパチンコ屋の広告がいまだに貼ってある。

第一は、(10)(11)と同じ「意志的な不作為」の解釈である。つまり、明確な意図があるかどうかはともかく⁸、その状態の存在に気づいていながら「すべき処置をしない⁹」状態を表しているという解釈である。言い換えれば、「するかしないか」について「しない」という選択判断を意志的に行った結果としての不作為の状態である¹⁰。

第二は、「すべきことに気づいていないためにそれをしない」という解釈である。この解釈の場合、その不作為は「意志的な不作為」と言えないのは事実である。

しかし、ここで注意すべきことは、(12)(24)の話者が当該の状態発生の原因を「意志的な不作為」によるものではない（＝「わざとそうしたのではない」）と認識しながらも、その状態を「意志的な不作為によって発生した」と見立てて修辭的に述べていると考えることができる点である。と言うより、そのような背景があるからこそ「Vテアル」が使用されていると考えるべきである。つまり、意志的行為の結果状態を表す「Vテアル」を用いて「すべき処置をわざとしない」という含みを持たせることによって、「Vテアル」の潜在的な動作主体に対する批判的な態度を示すことができる。(12)(24)は、このように「Vテアル」が持つ意志性を利用した修辭的な表現であると考えられる。

渡辺(2020)では、存在に至る過程を類型化し、モノの存在の表現を次のように分類した。

①元々そこにあるモノ：「アル」が使用可能。

「フグには猛毒がある」

②その場所で発生出現したモノ：「アル」「Vテイル」が使用可能。

「腎盂内に腫瘍が{ある／できている}」

③他の場所から移動したモノ（意志の関与なし）：「Vテイル」が使用可能。

「歩道に柔らかいギンナンが{^{??}ある／落ちている}」

④他の場所から移動（設置）したモノ（意志の関与あり）：「アル」「Vテイル」が使用可能。

「財布の中にお金がある／入っている」

「Vテアル」は、意志性が関与する移動・設置の結果の状態を表すから、上記分類の④に位置づけられる。結果状態型と状態型は、④内部における「Vテアル」の下位分類である。

(29)財布の中にお金がある／入っている／入れてある。

ただし、(6)の「(置き)忘れてある」の位置づけについては保留にせざるを得ない¹¹。「忘れる」には意志性は認められず、また「わざと忘れた（＝意志的な不作為）」と見立てて修辭的に述べていると解釈することにも無理があるからである。

「V忘れてある」の位置づけ、および上記の分類の④における「アル／Vテイル／Vテアル」の差異とのその使い分けについては今後の課題である。

引用文献

- 金水敏 2009 「意志性・主観性と文脈」『語彙の意味と文法』くろしお出版
杉村泰 1996 「形式と意味の研究 ― テアル構文の2類型 ―」『日本語教育』91
益岡隆志 1987 『命題の文法 日本語文法序説』くろしお出版
渡辺誠治 2020 「非情物の存在を表す「Vテイル」と「アル」の使い分けについて」『日本語教育』175

⁸ 4.1節で述べたように、不作為の場合、意図が読み込まれるとは限らないからである。

⁹ 杉村(1996)においても「意志のないテアル構文」が生まれる動機の一つとして「すべき処置を怠る」という側面に触れられている。

¹⁰ ここでの不作為および選択判断の主体は、「Vテアル」の潜在的な動作主である。

¹¹ 金水(2009)には「下書きの線が消しそこなっている」が類例として挙げられている。